

# 一年間をふりかえって

## 支部長にさく

# 日刊 動労千葉

79.12.27  
No. 310

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）04522 七二〇七

## 8ヶ月の激闘の先陣を叩ききり 激動の80年代へ飛躍する。

この一年有余の闘いの中で、文字通り各支部の最先頭を担い、闘い抜いてきた、各支部長に、一年間をふりかえって思うこと、さらにいままさに激動の80年代に向かって闘いに決起する決意も含めて日刊編集委員会はいてみた。

新小岩・松崎支部長

支部結成に対し、六〇〇名にも及ぶ部隊を投入し、崩すことが出来なかった「本部」反動集団とは対照的に、公労委認知、団交権獲得など、組合員にとっての不安が、ひとつひとつ着実に打ちつけられることにより解消された。その結果、竜崎さんも悪夢からめざまめわれわれの戦列に復帰した。今後、残る二名についても粘り強く説得したい。

津田沼・片岡支部長

3・30をもって「本部」反動集団の三里塚敵対、反合放棄路線をきっぱり拒否し、組織破壊攻撃に對しても全組合員の総力をもって真の動労運動を堅持したといえる。日本労働運動が右翼化・産報化という中において、それがどんなに困難な道であつても80年代の闘いを担い切ってゆきたい。

幕張・白井支部長

今年、5・6年分を一年で過した気がする。動労「本部」からの分離と新生動労千葉誕生をいっぺんで行なった大会議長として責任を痛感する。組織問題では、支部組合員との意見交換も含め「労働組合とは何か」というところまで話し合いを行なってきた。

千葉運転区・永田支部長

一年間、「本部」反動分子との闘い、自らのエゴのために、組織・仲間を裏切った者への徹底追及とそれをようごする国労内一部分子との闘い、三里塚・ジェット等々の闘いの連続であった。

蘇我・宇佐美支部長

この闘いの中で、自らの飛躍をもちと、支部のゆるぎない団結、組織強化をもちとすることが出来た。

破壊策動が加えられる中で、一〇〇%署名をもって結成大会が出来たことは、うれしかった。組合員数は少ないが、今までも全力で闘ってきた。

第3回定期大会も連続傍聴者の体制をとった。反処分闘争を突破口に80年代を闘い抜く。

木更津・斉藤支部長

三里塚現地集会をはじめ弱少ながら最大限の取組みをしてきた。やりがいがある反面、不安もあった。とにかく夢中になってやっていたうちに一年すぎた。これからは、国鉄35万人体制粉碎の闘いを職場からつくり出してゆきたい。闘いなくして、勝利なしの気持だ。

館山・佐久間支部長

初めて館山支部をあずかった。以来動労千葉の方針のもと、組合員の協力で今日まで闘い抜くことが出来た。この歳で勉強させられた一年であった。今後の課題として、同じ千葉県の労働者として、佐倉・銚子の仲間との団結をはかり、一緒に闘いたい。

勝浦・窪田支部長

激動の80年と言ううーそれももつともだ。でも、われわれにとって今年ほど苦闘した年はなかった。組織破壊に抗して、一四八名の組合員がひとつになり、信念をたもって闘い抜いた。この中で得たものは、少数でも団結すればかてるといふことだ。さらに80年代に向けてガンバリたいと思う。

成田・日暮支部長

この一年間、「本部」反動集団の破壊オルグ防衛に終ると思つた。しかし、それをつきやぶり、成田が動労千葉の先陣を切って闘い抜いた二波のストについては、自負している。

闘いえた組合員は、一様に自信をもってきているが、多少足並みの点で問題があったと思う。意識の面でもあるようにみられる。今後大胆な職場討議を行う中で、克服し、名実ともに、中軸としての闘いを進めてゆきたい。